



3月のほけんだより

令和4年3月15日発行
美女木げんき保育園
No.12



3月になり少しずつ暖かい日も増え、春を感じるようになってきましたね。1年前の春と比べ、お子さんも大きくなりました。1年はあっという間ですね。

さて、春の時期になると花粉の話題が出てきますね。花粉は、毎年立春頃から飛散し始め、6月中旬ごろまで飛散すると言われています。花粉症の症状は鼻水や鼻づまり、くしゃみなど風邪の症状と似ており、軽症であれば気にもしないこともあるかもしれませんが。しかし、鼻症状があると夜によく眠れなかったり、活動に集中できなったりすることがあります。コロナ禍でもありますので、なにか不安な症状がある場合には必ず受診をし、医師の判断を仰ぐようにしてくださいね。

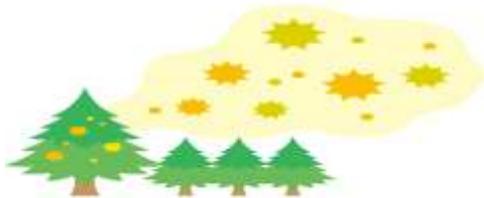
花粉症・風邪の違い

花粉症

- ・水性の鼻水、鼻づまり、くしゃみ
- ・目のかゆみや充血
- ・のどの痛み・かゆみ
- ・飛散時期によって数か月以上続く場合あり

風邪

- ・粘性（ひきはじめは水性）、色つきの鼻水
- ・発熱、咳
- ・1週間程度で症状は軽減



「3月3日」耳の日

知っておきたい耳の異常のサイン

この時期はアレルギーや気温差の影響で鼻水の出るお子さんが増えていますが、鼻水だけではなく耳に関しても注意をしなければなりません。気になる症状がある場合には、小児科ではなく耳鼻科等の専門機関への受診も考えてみてください。

耳の病気

子どもが風邪をひいて鼻水が出ているのを放っておくと、鼻水の中にウイルスや細菌が繁殖し、耳管を通して中耳に侵入して中耳炎を起こすことがよくあります。中耳の中で炎症が起こってうみがたまり熱を出すことや、鼓膜を圧迫するため強い痛みが起きます。また、鼓膜が破れてうみ（耳だれ）が出ることも。

発熱など、風邪の症状に加えて……

- ・しきりに耳を触る、頭を振る
- ・耳に触られるといやがる

痛みや違和感のために、耳を触ったり、頭を振ったりします。また、痛みのためにきげんが悪くなったり、夜なかなか寝なくなったりします。



聞こえの異常

聞こえの異常（難聴）には、生まれつき聴力が弱い場合と、病気が原因となっている場合があります。

難聴の原因となる病気は？

渗出性中耳炎

急性中耳炎が治りきらないと、中耳にサラサラとした液（滲出液）がたまりやすくなります。痛みや発熱などの症状がないため、発見が遅れることがあります。

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）

原因となるウイルスが内耳（音を感じる部分）に感染して、難聴を起こします。流行性耳下腺炎の予防接種を受けて、感染を防ぐことが重要です。

聞こえの異常は、言葉の育ちにも影響します。子どもは「聞こえにくい」ことに気づきにくく、正確に言えません。聞こえにくいサインを知って、早めに気づくことが大事です。

チェックポイント

テレビの音が大きい

テレビの音を、必要以上に大きくします。



後ろから呼んでも気づかない

後ろから名前を呼んでも振り向かなかったり、返事をしなかったりします。左右差がある場合もあります。



お願いします！

春が近づき、暖かい日が増え始めました。しかし、まだまだ日によって気温の変化は大きく、朝晩でも気温差があります。小さいお子さんは、“寒い”“暑い”を言葉で表現することができません。朝寒くて厚着をしてきても、日中は暑くなり薄着が適した気温にある場合があります。着替え袋の中を確認していただき、調節のできるような衣服のご準備をお願いいたします。また、お子さんたちは服の着脱も自分で頑張っていますので、サイズについても着脱のしやすいものをご準備くださいますようお願いいたします。



うさぎぐみはトイレトレーニングを始めています。おむつのサイズや女の子の服にご注意ください。
※スカートや長めのTシャツは汚れが付きやすく、着脱もしにくいようです。



こども服のサイズ表



年齢	6か月～	1歳前後	2歳前後	3～4歳
身長	65 ~ 75	~ 85	~ 95	~ 105
体重	9	11	13	16
サイズ	70	80	90~95	100
靴	-	13	14	15

上記は基本のサイズ表です。お子さまの体格に合わせたものをご準備くださいね。



3月の健診のお知らせ（川西町）

3月17日(木)13:15~14:00

ぴかぴか歯っぴい教室

(R3.1月、R2.3月、R1.9月、H31.3月生)

3月18日(金)13:15~

1歳6か月健康診査(R2.7.1~R2.8.31生)

※ 4月以降の健診に関してはまだ日程がわからないため4月号からの掲載になります。



2月の感染症情報

園内感染症罹患人数 1名

アデノウイルス感染症 1名

病児保育延べ利用人数 18名

ノロウイルス感染症 3名

感染性胃腸炎 4名

ウイルス性胃腸炎 2名

アデノウイルス感染症 2名

突発性発疹 2名

